

<抜粋版>

～未来につなげる、人をつなげる～

# 川島地域のアクションプラン



0. 未来につなげるために
1. 川島地域の現在と将来に向けた検討
2. これからの川島地域の活性化に向けて
3. 実現化に向けて
4. 地域活性に向けた取り組み

平成 26 年 3 月策定  
平成 27 年 3 月更新

川島地域のまちづくり検討会

## ○未来につなげるために

### (1) プラン策定の背景と経緯

平成 25 年 4 月のくぬぎ台小学校閉校により、若い世代や子育て世代のさらなる減少など少子高齢化の進展が懸念される中、小学校跡地活用を契機とした、様々な地域課題の解決、地域活性化に向けた取り組みの検討を進めてきました。

地域の課題解決や活性化は、実効性や実現性を高めるためにも、その地域に関わる住民等が主体的に取り組んでいくことが大切です。そのためにも、これらの検討は、自治会や旧くぬぎ台小学校跡地の利用者など広範囲にわたる地域住民と、関連する事業者、行政による体制で行ってきました。

#### ■ 検討会の様子



### (2) アクションプランとは

こうした検討を通じて、地域の課題解決とともに、地域の様々な資源を活かし、活力あるまちづくりの実現に向けた取組みや体制等について、このアクションプランとして取りまとめました。

活力あるまちづくりは、地域に関わる人々が目指す地域の将来像を共有化し、その実現に向けて様々な活動を工夫し協働で行っていくことが大切です。そのため、地域の現状や課題を踏まえ、課題解決や活力向上を目指していくための長期的な目標や活動内容を示しています。

これらを実現していくためには、地域に関わる人々が参画しながら取り組んでいくこと、行政や事業者、専門家など様々な人々と互いに支えあい協力しながら取り組んでいくことが大切です。そのための仕組み、体制づくりについても示しています。

### (3) アクションプランの展開

アクションプランは、つくって終わりではなく、その内容を実践し、試行錯誤しつつも軌道に乗せていくことが重要です。そのためにも、参加者の関心・意欲から具体的な活動を創出し、みんなで議論しながら段階的に実現化に取り組んでいきます。

また、プランの内容についても、社会情勢の変化や活動内容の進捗状況などに柔軟に対応し、必要に応じてプランの改善、見直しをするなど、活動の実践とともに成長するプランとしていきます。

ここでは、実践に向けたスタートアップとして、概ね3か年で取り組んでいくことについて記載しています。

## ○これからの川島地域の活性化に向けて

### (1) 川島地域が元気になるための基本的考え方

川島地域固有の資源を活用しつつ、多様な活動を活発に行いながら地域の活性化につなげます。

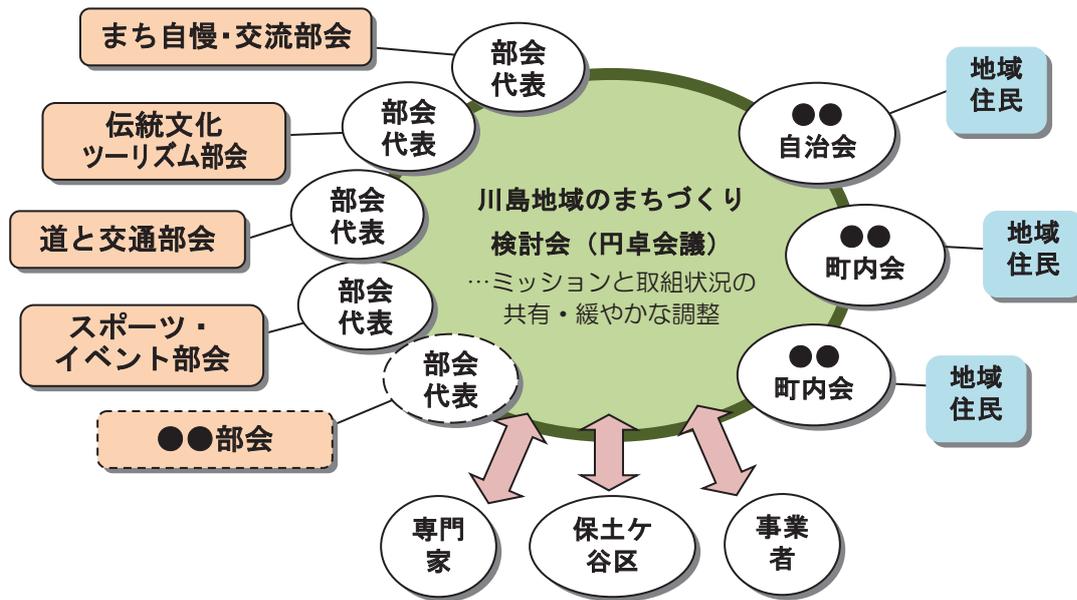
- ①地域の様々な課題を克服しながら、住んでいる人々が、地域に魅力や夢を見だし、愛着や誇りを育み、住む喜びを感じられること
- ②地域の魅力が地域外の人々にも知られて、交流が活発になること
- ③若い世代が移り住んできて、まちが次世代へとつながっていくこと

### (2) まちづくりの取組み方針

- ① 地域で受け継がれてきた、緑、水辺、農、歴史文化、学校跡地を活かし、育てる
    - ・斜面林や河川の水辺などの自然環境、活発な農業環境、歴史文化など地域固有の資源を大切に、川島地域の魅力づくりを進める。
  - ② 大人も子どもも集いともに楽しめる場や活動をつくる
    - ・地域に住み活動する様々な人々がつながり、交流による地域の活力向上を目指す
    - ・大人も子どもも、地域で暮らす居心地がよく、みんなで楽しめる場をつくる
  - ③ この地域での暮らしの豊かさを広く知らしめる（『まち自慢』する）
    - ・地域のみんで、川島地域の魅力を知り、地域に住む誇りを育む
    - ・川島らしい魅力をつくり、発信し、地域の交流促進につなげる
  - ④ 若い世代を呼び込み、まちを次世代に受け継いでいく
    - ・子世代、若い世代が住みたくなるまちの魅力を育む
    - ・次の世代への引き継いでもらう魅力と活力のあるまちに育てる
  - ⑤ これらの活動の前提として、住民の「安全・安心」や「快適な日常生活」のための課題解決にも取り組む。
    - ・みんなの暮らしや生活が活性化するため、道路交通環境の改善に取り組む
    - ・より安全・安心して暮らせるよう、防災関連の取組みを拡充させる
  - ⑥ ①～⑤の実現のために、皆で策を考え、提案し、行動する。
    - ・活性化対象範囲の住民、関連団体、関心のある人や事業者など、地域活性に関わるすべての人々が主体となって取り組む
-

## 計画の運用・体制づくり

- 個々の取り組みをベースに、実行する「部会」をつくる
  - ・アクションプランにある各種取り組みを実行していきます。
- 各部会の取組みや地域での情報を共有するための連絡調整会議（円卓会議）を設置する
  - ・継続的にまちづくりを進めるための各種取組みや地域の状況などの情報共有を図ります。
  - ・地域活性を効果的に推進していくため、各種団体との交流を深め、相互の活動の連携を図るものとします。
  - ・アクションプランのチェック、地域の意見をまとめて行政等との相談窓口などの役割を担います。



### 円卓会議の役割

各組織、団体間の理解、情報共有、交流を深めていくための場として次のような役割をもつものとします。これらについては、互いに負担なくできるところから深化させていくものとします。

- ・保土ヶ谷区川島原地区連合会、川島東部連合町内会、旭区笠町内会の情報交換、交流
- ・部会の活動状況の情報共有
- ・市・区との協議調整の窓口
- ・アクションプランの進行状況の確認や見直し
- ・部会活動が活性化に寄与しているかどうかの確認
- ・地域まちづくり組織とその計画として、持続発展する体制・仕組みづくり

### 持続発展する体制

長期的に地域のマネジメントを行う体制として、地域での合意形成を前提に、次のような仕組みの活用も視野に入れつつ、自立する体制づくりを目指します。

- ・地域まちづくりグループ登録・組織認定（横浜市地域まちづくり推進条例）
- ・NPO
- ・まちづくり会社 など

# 川島地域のアクションプラン」の更新と 旧くぬぎ台小学校的の利活用の検討

## まちづくりの取組み方針

- 地域で受け継がれてきた、緑、水辺、農、歴史文化、学校跡地を活かし、育てる
- 大人も子どもも集い、ともに楽しめる場や活動をつくる
- この地域での暮らしの豊かさを広く知らしめる（『まち自慢』する）
- 若い世代を呼び込み、まちを次世代に受け継いでいく
- これらの活動の前提として、住民の「安全・安心」や「快適な日常生活」のための課題解決にも取り組む
- (1) から (5) の実現のために、皆（住民、川島地域の活性化に関連する団体、事業者、個人）で策を考え、提案し、行動する

## 地域活性に向けたプロジェクト

①～⑤のプロジェクト提案

まち自慢・交流部会  
伝統文化ツーリズム部会  
スポーツ・イベント部会  
による実践

旧くぬぎ台小での事業者公募に向けたサウンディング（校庭・校舎）

## 旧くぬぎ台小の地域利用と事業者との協力・連携について更新が必要

# 旧くぬぎ台小を利用する地域活性プロジェクトと学校跡地の地域意向の整理

## プロジェクトでの利用頻度

- 必要な時いつでも
- 週1月1など定期的
- 年1回など定期的
- 非常時だけ

## 利用と管理の仕方

- 事業者が施設管理し、サービス提供
- 地域が施設管理し、プロジェクト実施
- 事業者が施設管理、地域がプロジェクト実施
- 協定などで一時的に地域に開放

## 事業者公募に求めること

- 事業者が事業運営をもとめる
- 地域と事業者で利用・管理する場所を分ける
- 事業者が、定期的な一般開放を条件づける
- 事業者が連携、協力を条件づける

## 学校跡地の利用と管理

プロジェクト名	①ビジターセンター・まち自慢の拠点づくり	④農の活用プロジェクト	⑤買い物ができるといえる店づくり	⑥高齢者と子供の交流・サービス・居場所づくり	⑧文化芸術フォーラム	⑩スポーツ・イベント拠点づくり	⑭防災拠点としての活用
利用場所	・空き教室、給食室 ・校庭	・校庭	・校舎1階	・家庭科室 ・校舎2～4階	・体育館、校庭	・校庭	・全体
学校跡地での活動アイデア	・展示交流スペース整備 ・定期的にバザールや体験会 ・コーディネートするNPO活動 ・元気な高齢者の仕事づくり ・若い人の起業支援	・月一度くらい野菜、果物、花などのバザール ・コミュニティレストラン	・日用品など生活物資が買える場づくり ・喫茶コーナーなど、いこいの場場づくり ・「農」を活用したコミュニティレストラン ・ファーマーズマーケット、配食サービス	・多世代交流、サロン ・高齢者介護・デイサービス ・健康遊具、芝生広場などの整備 ・診療所等 ・高齢者ダンス、料理教室 ・キッズクラブ、保育子育て見守り環境づくり	・お隣りが一堂に会すイベント開催 ・朝市開催	・市内の小中高を対象にスポーツ合宿 ・スポーツパーク（社会人、高齢者の利用） ・グラウンドゴルフの公式グラウンド整備	・防災井戸掘り、防災キャンプの実施 ・防災教育の場を作る
活動体制づくりのアイデア	・まち自慢・交流部会 ・地域住民※ ・事業者 ・大学	・伝統文化ツーリズム部会 ・農家、農協、ボランティア	・まち自慢・交流部会 ・地域住民※	・まち自慢・交流部会 ・社協 ・地域の福祉法人	・伝統文化ツーリズム部会 ・川島離子、西谷離子 ・神社 ・農家、農協	・スポーツ・イベント部会 ・スポーツクラブ協議会（9団体） ・健康体操の会	・地域住民 ・防災拠点リーダー ・消防
校舎の利用と管理							
事業者公募に求めること							
地域と事業者の連携を目指し、今後検討していく							

地域と事業者の連携を目指し、今後検討していく

